

Seminar Report

実践で理解できる劉勇先生の美容鍼臨床セミナー

‘結果を出す’美容鍼テクニック 最少の鍼で最大の効果
すぐに役立つ鍼の技と、円皮鍼の効果的活用

美容鍼ですぐに実践できる手技を中心に、講義・実践を合わせたプログラム構成で開催されました。第一部講義『顔は内臓機能を映し出す』では、顔への刺激により経絡を通して内蔵機能へのアプローチをしている Liu 式美容鍼の考え方をレクチャー、また、劉勇氏による実演では『頬車』を例に、鍼の角度・方向により効果は変わることが解説されました。

第二部の2時間半の『実習』は、美容鍼の最も多い主訴から『たるみ』『ほうれい線』の改善をテーマに、『最少の鍼で最大の効果』を出す選穴、鍼の効果を上げる翡翠ローラー施術やマッサージ施術の方法を、鍼のテクニックと合わせて実演後、二人一組のベッドでの直接指導により細かい指導が行なわれました。



第三部では、円皮鍼を効果的に治療に取り入れ効果を持続させる方法が、劉勇氏の成功事例と合わせてレクチャーされました。美容鍼の患者様への円皮鍼処方時のアドバイス方法や話題提供など、臨床で実践できるコミュニケーション術と共に、顔ツボ表示シートの紹介も行なわれました。



ご参加の皆様、ありがとうございました！！

2010年3月22日(月祝) 11時～16時 於:東京医療福祉専門学校
講師:医学博士 劉勇 / アシスタント講師:ハリアップ副院長 中澤正憲

美容鍼セミナー最後に、劉勇先生からの宿題

Q. 「顔面麻痺の患者様は、顔がどれだけ麻痺していても、咀嚼は問題なくおこなえます。なぜだか考えてみてください。」

●ご参加の先生より早速のご回答をいただきました。

本日は、鍼灸美容セミナーありがとうございました。
大変、勉強になりました。
最後に出た宿題ですが、何故顔面神経麻痺で、咀嚼が出来るか？という質問ですが、解剖学的にいうと、支配神経が違うから。という答えでよろしいのでしょうか？

下顎の運動神経は、三叉神経の支配で、咀嚼筋・顎二腹筋の前腹を支配しています。
表情を支配している支配は、顔面神経です。
また、味覚は顔面神経、咀嚼筋の麻痺は、三叉神経となり、簡単に顔面神経麻痺=顔面神経の障害と判断することは、危険な判断と思われるます。
生意気な解答だとは思いますが、答え合わせのほう、よろしくお願ひします。
また、セミナーのご連絡等がございましたら、参加したいと思っておりますので、ご連絡よろしくお願ひします。

(ご本人様への了承を得て、ご紹介させていただきます。)

解剖の知識を非常にお持ちのご回答、嬉しく思います。正解です。
鍼灸治療に対して、ここまで解剖を理解できていれば、さらに深く経絡の流れを理解し、両方の知識を重ねることで臨床に十分活かしていけます。

顔面麻痺においては、三叉神経の麻痺は通常考えられません。脳卒中などにより三叉神経が麻痺すると、咀嚼・嚥下の活動(=食べる機能)を失うことにもなります。

顔面神経麻痺は、中枢性のものと末梢性のものがあり、脳に障害があることも考えられますので、患者様の表情や動きの観察と診断が大変重要になります。簡単な判断は危険な判断にもなります。一方、顔面の痛みや痺れに対しては、顔面神経は原因と考えられません。

治療に関していえば、三叉神経痛と顔面神経麻痺では、同じツボでも鍼の打ち方、アプローチの仕方が違ってきます。その技術をお教える機会は、改めて設けたいと思っています。
知識・技術、経験をつみ、がんばってください。 劉勇

コリトレールグループでは、鍼灸治療の普及と治療家の育成、鍼灸師同士の横のつながりを目的とし、様々なPR活動や、教育活動を行なっております。臨床セミナーにて取り上げて欲しいテーマや、セミナーへのご提案などございましたら、いつでもお気軽にお送りください。下記窓口で受け付けております。

コリトレール株式会社 統括本部
TEL: 03-5447-5621 / FAX: 03-6421-3212
Email: mail@koritoreru.com 広報ミクシィ: Liu PR